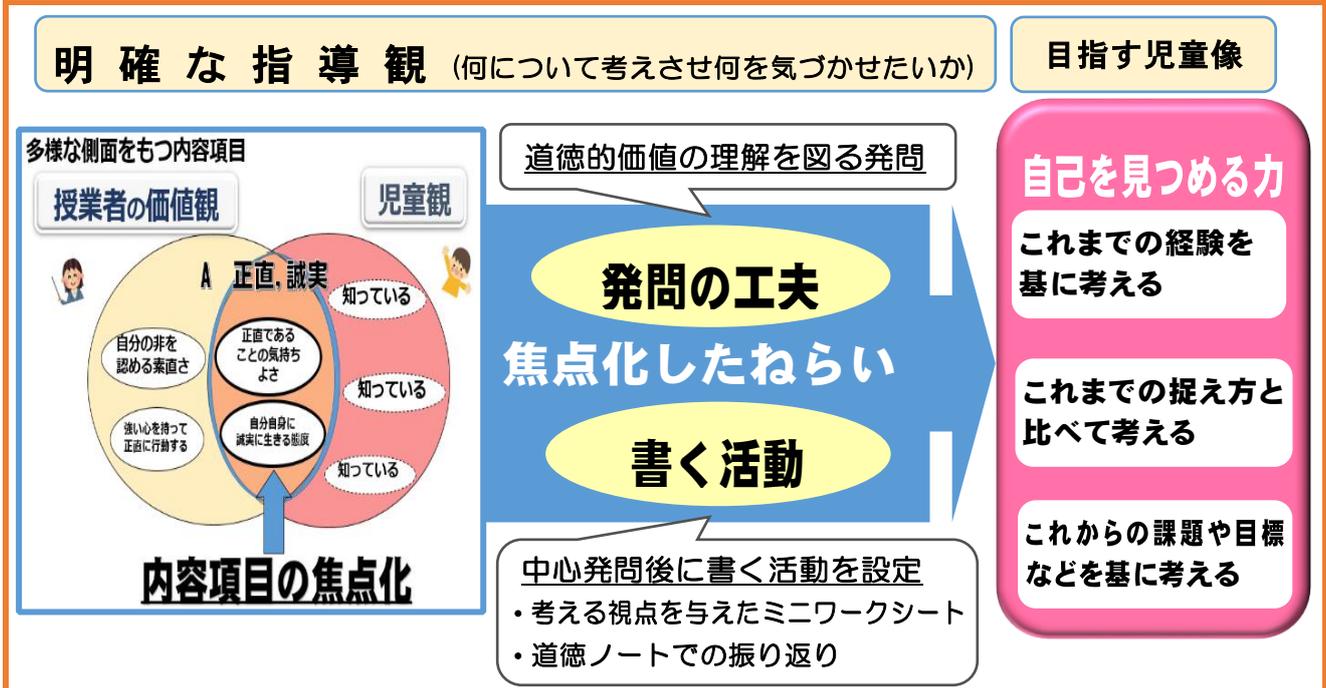


平成 30 年度	後期長期研修	教科・領域	小学校・特別の教科 道徳
所属学校	与那原町立与那原小学校	氏名	上地 真由美
テーマ	「自己を見つめる力」を育む道徳の授業づくり		
サブテーマ	明確な指導観から生まれる発問の工夫と書く活動を通して(第3学年)		
概要	<p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>教材に対するねらいの設定が曖昧 <input type="checkbox"/>自分との関わりが不足 <input type="checkbox"/>書く活動の効果的な設定が不足 <p>解決のため</p> <ul style="list-style-type: none"> ○内容項目のねらいを焦点化し、明確な指導観をもつ ○明確な指導観から生まれる発問の工夫を行う ○明確な指導観から生まれる書く活動の適切な設定を行う 		
キーワード	自己を見つめる力、明確な指導観、内容項目の焦点化、焦点化したねらい、何について考えさせ何を気づかせたいか、発問、書く活動、ミニワークシート		

イメージ図



成果

- ・授業者が考えさせたい部分と児童が気づいていない部分の重なる内容項目からねらいを焦点化し、明確な指導観をもって発問の設定に生かすことで、児童は自分自身との関わりで思考し、道徳的価値の理解を図ることができた。
- ・中心発問後の書く活動を設定することで、考える視点が明確になり、これまでの価値観や経験を基に自分自身との関わりで思考し、話し合う児童の姿が見られた。

